

交通アクセス

周辺地図

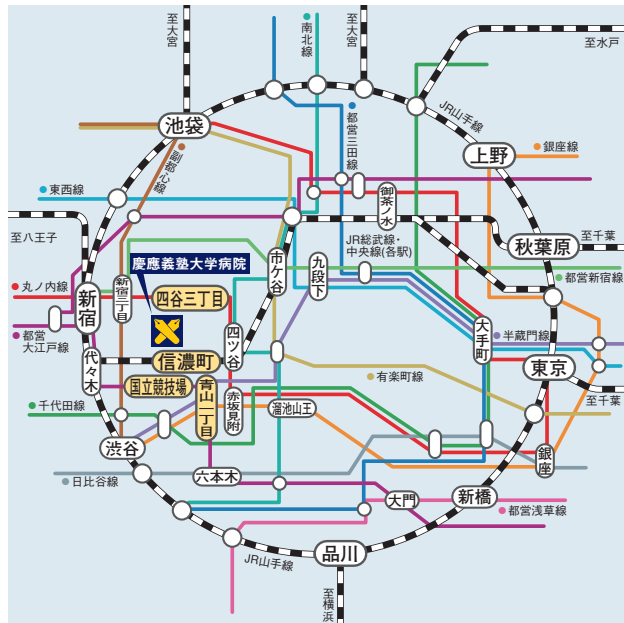


■公共交通機関で来院される方

【JR・地下鉄】

- JR中央・総武線「信濃町」駅下車
徒歩約1分
- 都営大江戸線「国立競技場」駅下車（A1番出口）
徒歩約5分
- 東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目」駅下車（1番出口）
徒歩約15分
- 東京メトロ半蔵門線・銀座線「青山一丁目」駅下車（0番出口）
徒歩約15分

路線図



【バス】

- 新宿駅西口－品川駅高輪口（品97）「信濃町駅前（慶應病院前）」下車
- 早大正門－渋谷駅東口（早81）「四谷第六小学校入口」下車

■お車で来院される方

- 駐車スペース（有料）は台数に限りがありますので、満車の場合は入場できません。診察・検査等の予約時間に合わせ、電車・地下鉄・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

※雨天時や休診日前後は特に混雑いたしますので、ご注意ください。

慶應義塾大学病院Webサイト「アクセス（交通のご案内）」

<https://www.hosp.keio.ac.jp/kotsu/>



お問い合わせ

■外来予約窓口

（初診のご予約／予約の確認・変更／検査予約の変更）

●初診のご予約

03-3353-1257（午前8時30分～午後4時30分）

03-5363-3020（がん専門初診外来専用）

※ご予約には紹介状が必要です。

※紹介状をお持ちでない場合、初診に係る特別料金（選定療養）として、9,900円（税込）をご負担いただきます。詳細は外来予約窓口でご確認ください。

●予約の確認・変更（歯科・口腔外科／検査を除く）

03-3353-1205（午前8時30分～午後4時30分）

●歯科・口腔外科の予約変更

03-3353-1211

歯科・口腔外科受付（午前8時30分～午後4時00分）

●検査予約の変更（CT、MRI、内視鏡、超音波、心電図、PET、SPECT等）

03-3353-1205（午前8時30分～午後4時30分）

03-5363-3654（午後4時30分～午後5時00分）

■会計窓口（診療費のお支払について）

03-5363-3656（午前8時30分～午後5時00分）

■文書受付窓口（診断書・証明書作成・公費関連書類について）

03-5363-3531（午前8時30分～午後5時00分）

■医療連携推進部 病床管理担当（入院・退院について）

03-5363-3855（午前8時30分～午後5時00分）

■医療連携推進部 医療連携担当

03-3353-1889（午前8時30分～午後4時30分）

■セカンドオピニオン外来事務局

03-3353-1139（午前8時30分～午後4時30分）

■がん相談支援センター

03-5363-3285（平日午前9時00分～午後5時00分）

■総合相談窓口

03-5363-3638（午前9時00分～午後4時00分）

■予防医療センター

03-6910-3533（午前8時30分～午後5時00分）

■その他のお問い合わせ（代表）

03-3353-1211

受付時間・休診日

■外来受付時間

午前8時40分～午前11時00分

■休診日

日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日、休日 /

年末年始（12月30日～1月4日）

※休診日でも外来診療日とする場合もあります。詳細は病院Webサイトをご確認ください。

慶應義塾大学病院Webサイト

<https://www.hosp.keio.ac.jp/>



2025.11



慶應義塾大学病院

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地 03-3353-1211（代表）



慶應義塾大学病院

総合案内 2025





慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される

患者さん中心の医療を行います

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します



慶應義塾大学病院の理念 実施方針

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 1. 患者さんの立場で | 私たちは、患者さんの立場になって考え、ともに疾病の克服に努めます。 |
| 2. 質の高い安全な医療 | 私たちは、質の高い安全な医療を持続できるよう努めます。 |
| 3. 不断の自己点検 | 私たちは、不断の自己点検と評価によって、病院機能の改善に努めます。 |
| 4. 独立自尊の医療人 | 私たちは、独立した一個人として責任をもって社会的使命を果たします。 |
| 5. 総合的なチーム医療 | 私たちは、各職種が一体となった総合的なチーム医療を展開します。 |
| 6. 新しい医療 | 私たちは、基礎と臨床が一体となって、積極的に新しい医療に挑戦します。 |
| 7. 倫理と人権 | 私たちは、高い倫理性を持って、人権を尊重した医療を推進します。 |

患者さんの権利

人として尊重されプライバシーが保護された医療を受けることができます。

安全・安心で良質な医療を受けることができます。

ご自身の医療に関して適切な説明を受けることができます。

ご自身の意思で医療を選択することができます。

ご自身の医療に関して意見や希望を述べることができます。

ご自身の医療に関してセカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんの義務

医療に関して正確に情報提供してください。

医療に関する説明が理解できない場合はその旨を伝えてください。

法令や院内の規則を遵守し暴力・暴言等の患者さんや職員への迷惑行為を厳に慎んでください。

受けた医療に対して当院が請求する医療費は遅滞なくお支払いください。

ご挨拶

革新と信頼を礎に～慶應義塾大学病院の使命と未来への歩み～

慶應義塾大学病院は1920年の開院以来、100年以上にわたり「診療・研究・教育」の三本柱を使命として歩みを進めてまいりました。患者さんに寄り添った医療を提供するとともに、新しい知を生み出し、次代を担う医療人を育成することを重視し、社会に貢献し続けています。

当院は、高度急性期医療を担う拠点病院として、多くの診療分野で専門性の高い医療を実践しています。重いご病気や複雑な症状に対して迅速かつ適切に対応し、科学的根拠に基づく治療を提供することは大学病院の大きな責務です。各診療科が担う役割を基盤としつつ、複数の診療科や専門職種が連携し、患者さん一人ひとりに合った医療を組み立てています。さらに、再生医療やゲノム医療、AIを活用した診断支援など、未来を見据えた取り組みにも積極的に挑戦し、個別化医療の実現を目指しています。

急性期医療を確実に機能させるためには、広いネットワークが不可欠です。当院だけで医療を完結させるのではなく、関連病院や地域の医療機関と連携し、治療の前後を見据えて協力し合うことで、より多くの患者さんを受け入れる体制を整えています。こうした体制により、全国から患者さんが安心して来院できる拠点病院としての役割を果たしています。さらに、東京都災害拠点病院としては、首都直下地震などの大規模災害や緊急事態に際して地域の医療救護の中心となるべく、常に備えを整えています。

また、安全と安心を基盤とする「医療安全文化」を根づかせることを大切にしています。診療科や職種をこえて全職員が協力し、取り組みを共有することで、事故を未然に防ぎ、質の高い医療を提供できるよう努めています。安心できる環境のもとでこそ、医学の進歩と患者さん本位の医療が実現すると考えています。

大学病院は診療の場であると同時に、研究と教育の場でもあります。日々の診療から得られた課題を研究に結びつけ、その成果を臨床に還元する循環は、新しい治療や診断法を生み出す原動力となります。その過程で、多くの医師や医療スタッフが成長し、未来を支える人材へと羽ばたいていきます。私たちは「人を育てる」ことを重視し、豊かな人間性と知性を備えた医療人を社会に送り出す責務を担っています。

さらに近年、当院はAIホスピタル構想やデジタルトランスフォーメーションを積極的に推進し、次世代の医療モデルの構築を目指しています。電子カルテや医療データの高度活用により診療の効率化と質の向上を図るとともに、手術支援ロボットや生体情報をモニタリングするセンサー技術などを活用し診療支援を進めています。これにより、患者さんにより良い医療を届けると同時に、医療従事者の負担軽減にもつなげています。こうしたDXの推進は、単なる技術革新にとどまらず、患者さん中心の医療を実現する大きな力になると考えています。

大学病院に求められる使命は国内にとどまりません。国際的な視野を持ち、海外の大学病院や研究機関との連携を強化することも重要です。当院はグローバルな共同研究や人材交流を推進し、世界水準の知見や技術を取り入れることで、患者さんに還元できる医療をさらに発展させるとともに、日本の医学・医療の進歩にも寄与してまいります。こうした国際的なネットワークは、未来を担う医療人にとっても大きな学びとなり、教育の質を高めることにもつながると考えています。

これまでの伝統を礎に、私たちは「革新」と「信頼」を大切にしながら、高度急性期医療を確実に担ってまいります。国内外のネットワークを広げ、安心と希望を届けられる病院として、そして未来を切り拓く大学病院として、皆さまの健康と笑顔のため私たちは挑戦を続けてまいります。

慶應義塾大学病院 病院長 福永 興壱



目次

理念／ご挨拶	1
病院としての取り組み 2024年から2025年の主な取り組みと出来事／ご寄付について	3
＜研究＞ 基礎・臨床一体の研究推進体制	7
病院の先進的な取り組み	9
革新的医療技術創出拠点（橋渡し研究支援機関・臨床研究中核病院）としての取り組み	10
＜教育＞ 基礎・臨床一体型の教育	11
沿革	13
組織	15
役割と機能	17
資料	19
構内図	23
患者さんご紹介方法／初診受診ご予約方法／人間ドックのご案内	25

2024年から2025年の主な取り組みと出来事

1 乳腺外科の開設

これまで一般・消化器外科の一員として診療を行っていましたが、2025年4月1日より、新しく1つの診療科として乳腺外科を開設いたしました。乳腺外科ではこれまで通り「伝統と革新」「思いやりと温かさ」を両立させた、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供してまいります。

当科では、日本有数の歴史を誇る慶應外科の重厚なバックボーンを基盤に、新しい知識・技術・テクノロジーを融合させることで、“乳がんの根治”を目指す医療を高い水準で実現しています。乳がんの診断から手術・乳房再建・放射線治療・薬物療法、さらには長期的なフォローアップに至るまで、形成外科・放射線科・産婦人科など他診療科と密に連携し、きめ細かな対応ができる体制を構築しています。また、背景疾患や基礎疾患をお持ちの患者さんに対しても、総合病院としての強みを活かし、安全・安心な診療および手術を提供いたします。

当科の特色は大きく3つに分けられます。

1. 経験豊富なスタッフによる根治性と整容性を両立した治療

診療・手術にあたるスタッフは、全て日本乳癌学会認定の乳腺専門医が担当いたします。乳房再建術においては形成外科と連携し、インプラントを用いた再建から自家組織による再建まで、幅広い選択肢を提供しています。

2. 総合病院ならではの強固な多診療科連携

糖尿病や高血圧といった生活習慣病はもちろん、心臓手術後や膠原病などの重篤な疾患をお持ちの患者さんにも、他診療科と密に連携しながら、安全・安心な診療および手術を提供しています。手術などに際しては、放射線科などと合同カンファレンスを実施しています。

3. 先進医療・臨床研究への積極的な取り組み

当院は国内有数の臨床研究中核病院として、患者さんの診療に役立つ臨床研究や治験に積極的に参加しています。また、がんゲノム医療センターと連携し、遺伝子診断を用いた治療方針の選択を行うなど、新しい医療を提供しています。



当科では、患者さんに安心いただける医療を、あたたかなホスピタリティとともに提供してまいります。

2 オリゴ転移センターの開設

2025年3月に、診療クラスターの1つとして、日本初となるオリゴ転移センターを開設しました。オリゴ転移とは、少数個（おおそ5個以内）のがんの遠隔転移が存在する病態をいいます。従来は、遠隔転移がある場合、原則として全身療法が推奨されてきました。しかし、少数個の転移がある場合、切除、放射線治療、穿刺治療（ラジオ波、マイクロ波、冷凍凝固療法）、およびそれらを組み合わせた局所治療を行うことで根治や延命につながる可能性が報告されており、オリゴ転移に対する局所治療が注目されています。また、抗がん剤治療、ホルモン治療、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、ゲノム医療などの全身療法も日進月歩の勢いで進化しています。しかし、それぞれの患者さんに対する最適な治療法は定まっておらず、個々の病態に応じた慎重な検討が必要です。

従来の日本におけるオリゴ転移の治療は、がん治療に携わるさまざまな診療科が、個別に対応してきました。当センターでは、各診療科の知識と経験を結集し、ガイドラインにて推奨される治療法を参照しつつ、患者さんの価値観や希望、ライフスタイルなど、さまざまな側面から総合的に判断し、より良い治療法を提供していきます。さらに、体系的なオリゴ転移治療を目指していきます。



シンボルマーク



オリゴ転移センターのスタッフ

3 診療部門の新しい分類 -内科系診療科、外科系診療科、そして横断的診療科-

一般的に病院の診療科の分類は、内科系と外科系に分けて表記されることが多いですが、当院のWebサイトでは2025年4月から“横断的診療科”という枠組みを加えて、3つの分類にしました。内科系、外科系は専門領域を縦割りにした診療科ですが、横断的診療科はあらゆる専門領域を広くサポートすることを役割とし、病院の質の向上に貢献しています。縦の糸と横の糸がしっかりかみ合うことで、よりよい診療の提供を目指しています。

内科系		外科系		
呼吸器内科	循環器内科	一般・消化器外科	乳腺外科	呼吸器外科
消化器内科	腎臓・内分泌・代謝内科	心臓血管外科	脳神経外科	小児外科
神経内科	血液内科	整形外科	形成外科	産科
リウマチ・膠原病内科	小児科	婦人科	眼科	皮膚科
精神・神経科		泌尿器科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	歯科・口腔外科

横断的診療科			
放射線診断科	放射線治療科	リハビリテーション科	麻酔科
救急科	総合診療科	臨床検査科	病理診断科

4 災害時のBCP(事業継続計画)

BCPとは災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画(Business Continuity Planning)のことで、特に日本では2011年の東日本大震災をきっかけにその重要性がますます注目されてきました。

防災マニュアルが、災害時に患者さんや従業員の安全、資源の確保を目的とするのに対し、BCPは災害時でも病院の医療機能提供を維持することが目的です。特に災害拠点病院においてBCPは大規模災害などの緊急事態に必要不可欠で、当院では2013年に初版を作成し、元消防庁の専門家による見直しなどの改定を経て、2022年8月に第3版が完成し現在に至っています。

その後もこのBCPの検証も含め、当院DMAT隊の主導による災害対応訓練を定期的に行っており、2025年度は6月に「長時間の業務継続に向けた検討実践」をテーマに訓練を実施いたしました。病院長、副病院長、看護部長も参加して、いざという時に迅速に対応し患者さんへの医療の提供が継続できるよう病院一丸となって努めています。

病院や社会の状況は常に変化を続けていますので、策定したBCPの内容も定期的に見直し、改善していくことが大切です。BCPは緊急時において患者さんや医療従事者、そして病院機能を守るための砦になる計画です。深刻なリスクに直面しても冷静に対応できるよう、当院では今後もBCPの見直しに積極的に取り組んでまいります。



対策本部の訓練の様子



病棟を想定した訓練の様子

5 病院Webサイト、医療・健康情報サイトKOMPASのリニューアル

慶應義塾大学病院の公式Webサイト(病院Webサイト)を、2025年3月、約10年ぶりにリニューアルしました。従来のサイトは内容は充実していたものの、技術の進歩による見た目の古さや、長期的な更新による構成の複雑化が課題となっていました。また、信濃町メディアセンターが事務局を務める医療・健康情報サイト「KOMPAS(Keio Hospital Information & Patient Assistance Service)」も同様に、コンテンツが高く評価されていながらも、運用開始から10年以上が経過し、見た目の古さやレスポンシブデザイン(スマートフォンやタブレットへの最適化)への対応が課題となっていました。両サイトを同時にリニューアルし、統一感のあるデザインで、相互に行き来しやすい仕組みを導入することで、より多くの方に有益な情報を提供することを目指しました。

リニューアルは、さまざまな部門のメンバーで構成されたりニューアル検討委員会が主導し、業者の選定、新サイトの検討等を進めました。今回のリニューアルでは、「現行コンテンツを踏襲しつつ、動線を整理し、デザインを一新する」ことを基本方針としました。分散していたコンテンツを整理し、関連するコンテンツへの入口を集約するよう努めました。また、目的の情報に迷わずたどり着けるよう、サイトの階層や動線をシンプルでわかりやすくすることにも注力しました。病院WebサイトとKOMPASは、ドメインは分けたまま、トップページでタブを切り替えることで、1つのサイトのようにシームレスに閲覧できるようになりました。

リニューアルを経て、Webサイトの品質は大きく向上しました。今後もコンテンツの追加や修正を継続し、患者さんや医療関係の皆様にとって有益で信頼性の高い情報を掲載できるよう、さらなるサイトの充実に努めてまいります。



新 病院Webサイト

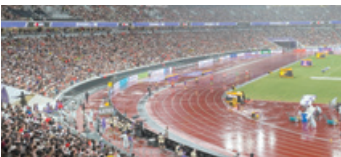


新 医療・健康情報サイトKOMPAS

6 東京2025世界陸上選手権大会への協力

2025年9月、国立競技場を中心に開催された東京2025世界陸上に、当院は大会指定病院として協力し、選手・スタッフ・大会関係者等、さまざまな症状の患者さんの救急対応を行いました。また、観客・マスコミ関係者等の体調不良者を対象としたスタジアム側の医務室運営にも当院の医師が中心となって関わり、現場で多数の診察・治療にあたりました。

当院は2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックにおいても医療支援を実施しており、その際のさまざまな準備と経験を活かし、60万人を超える観客を動員した本イベントにおいても、確実な医療支援を行うことができました。



7 Keio Outstanding English Communication Award (KOECA)

KOECAは、本学医学部卒業生の菅沼安嬉子先生のご寄付により設置されました。本賞は、最前線で患者さんに対応するメディカルスタッフの英語力を向上させること、それにより海外からの患者さんへのサービスの質を高めること、そして職員のモチベーション向上につなげることを目的としています。

2025年2月20日に第1回、同年7月17日に第2回表彰式を開催し、基準を満たした受賞者21名(看護部20名、薬剤部1名)に対して賞状とバッジが授与されました。受賞した職員は胸元にバッジを身につけ業務に従事しています。



胸元のバッジ

8 モノ搬送ロボット「FORRO」の運用開始

医療従事者の負担軽減および業務効率化を目的として、2025年2月より、川崎重工業株式会社製のモノ搬送ロボット「FORRO」の実証実験を行い、2025年度より本格運用を開始しました。検体や検査容器の搬送のため、各病棟や救急外来と検査室を往来する検体搬送用1台と、薬剤部から各病棟への薬剤搬送用1台の計2台を導入しました。日中はあらかじめ決められた時間にルート搬送を行う定時便、夜間は専用通知端末からの呼び出しに応じた搬送を行うオンデマンド便として24時間体制で稼働しています。従来の医療従事者による搬送では叶わなかった休診日の薬剤定時便の搬送も可能となりました。搬送時には、1号館と2号館の混雑する外来エリアもスムーズに往来し、製造メーカーの異なる複数のエレベーターやセキュリティドアと連動、自律走行にて搬送を行っています。今後も「FORRO」のさらなる活用方法を検討していきます。



9 医療連携推進フォーラム ハイブリッド開催

医療連携強化に向けた情報交換や交流を行うため、近隣の医師会や医療連携協定締結医療機関(慶應メディカルパートナー)、産業医、関連医療機関、ならびに看護や介護に係る施設スタッフの方々をお招きし、2018年8月より「医療連携推進フォーラム」を開催しています。2025年7月4日には第17回「医療連携推進フォーラム」をWebと対面のハイブリッド形式で開催し、近隣医師会の先生方を当院へお招きいたしました。

テーマとして、医療連携推進部部長による「医療連携強化の取り組み」と、乳腺外科・がんゲノム医療センター・オリゴ転移センターによる「医療の発展的な取り組み」が紹介されました。本フォーラムを通して慶應義塾大学病院における強みや新たな取り組みの紹介が行われました。

遠方の医療機関からのご参加もあり、後日配信した動画も多数視聴され、地域の皆様から「最新の医療情報を得られた」「連携して医療に取り組む姿勢を見られた」といった声をいただくなど、今回も強い関心が寄せられました。今後も医療連携推進フォーラムを通じて地域の皆様のご意見をうかがいながら、より緊密に連携し、医療連携を推進してまいります。

医療の発展的な取り組みの紹介



乳腺外科 林田診療科部長

がんゲノム医療センター 中村副センター長



オリゴ転移センター 武田センター長

ご寄付について

慶應義塾大学病院では、当院内外の皆様のご芳志を、診療、医学教育、医学研究の発展のために活用させていただいております。多くの皆様からご支援・ご寄付を賜り、心より厚く感謝申し上げます。

当院に対するご寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。また、ご寄付に際しましては、大学病院の医療や信濃町キャンパスの教育研究の機能を拡充・維持するためのご支援、医学研究の発展に対するご支援、医学生の育成へのご支援等、具体的な用途をご指定いただくことができます。ご支援をお考えの方は、担当窓口までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

担当窓口	対応部門	連絡先
慶應義塾医療環境整備資金	秘書室 (信濃町キャンパス)	03-5363-3430(平日:午前9時00分～午後4時30分)
慶應義塾全体に対するご支援 寄付金全般に関するご相談・お問い合わせ	基金室 (三田キャンパス)	03-5427-1898(平日:午前10時00分～午後3時00分) kikin-box@adst.keio.ac.jp https://kikin.keio.ac.jp/

基礎・臨床一体の研究推進体制

－アカデミア発 新規医療技術をいち早く医療現場・社会へ－

慶應義塾大学は、医学・看護医療学、薬学、理工学、環境情報学など、生命医科学・医療の分野に直接関わる多彩な学部・大学院や、先端生命科学研究所、ウェルビーイングリサーチセンターなどの研究所を擁し、密接に連携・協働することを通して、総合的に研究を推進しています。慶應義塾大学病院は、2014年8月に臨床研究推進センター、さらに2019年8月に臨床研究監理センターを設置し、医学部・病院開設当初からの「基礎・臨床一体型医学・医療の実現」の基本理念のもと、基礎研究から臨床研究・治験、さらに実用化までの各研究開発プロセスを一貫して支援する体制を整備しました。

また、慶應義塾は、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援する「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣から認定を受け、臨床応用を目指すアカデミア発の医療シーズ（医薬品・医療機器・再生医療等製品・体外診断用医薬品）に対して臨床研究推進センターが研究開発の支援を行っています。さらに、日本発の革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う医療法に基づく臨床研究中核病院として承認されています。

臨床研究実施方針	
慶應義塾大学病院は、未来のよりよい医療のため、次の方針に基づく臨床研究を行います。	
1.被験者の保護	被験者の身体の安全、プライバシーの保護、人権の尊重を第一とし、インフォームド・コンセントは丁寧な説明による十分な理解に基づいて受けます。
2.法令の遵守	法令、倫理指針等を遵守し、社会の一員として求められる責任を果たします。
3.公正な研究活動	気品の泉源、智徳の模範たる組織として、不正を容認せず、倫理と科学の両面で信頼される研究成果を追求します。
4.人材の育成	未来の医療を拓く質の高い研究者、医療人を育成します。
5.社会への還元	未来社会の発展のため、他施設への支援や相互協力を行い、研究成果の実用化を促進します。

治験・臨床研究

臨床研究は、患者さんなどにご協力いただき、病気の原因の解明、予防・診断・治療の改善、傷病からの回復および生活の質の向上などのために行う医学研究です。研究の内容により遵守すべき規制が異なり、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する指針」、「臨床研究法」、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」等のもとで実施されますが、以下の表に示したようにこれらの臨床研究は倫理委員会等で審議された上で実施されます。治験は新しい医薬品・医療機器・再生医療等製品などの製品候補について、その治験の内容を理解いただき文書にて同意をいただいた患者さんの参加により、薬事承認に必要なデータ（有効性や安全性等）を収集することを目的としています。「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、関係省令に基づいて行われますが、臨床研究と同じように以下の表に示した治験審査委員会で審査され、承認された上で実施されます。

治験審査委員会で承認された新規治験契約件数

区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
企業治験	医薬品	36	39	36	37
	医療機器	0	2	4	1
	再生医療等製品	0	3	0	2
医師主導治験	医薬品	4	6	6	1
	医療機器	1	1	0	1
計	41	51	46	42	47

※当該年度に承認された新規治験契約数を年度ごとに集計

医学部・病院で許可した新規研究課題件数

区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
臨床研究（特定・非特定）	21	19	15	20	13
再生医療等提供計画	3	1	1	0	1
倫理指針研究	355	348	340	388	372
その他（医療計画、疫学研究 他）	6	28	8	4	1
計	385	396	364	412	387

※当該年度に承認された新規申請課題を年度ごとに集計（前年度申請分を含む）

臨床研究推進センター

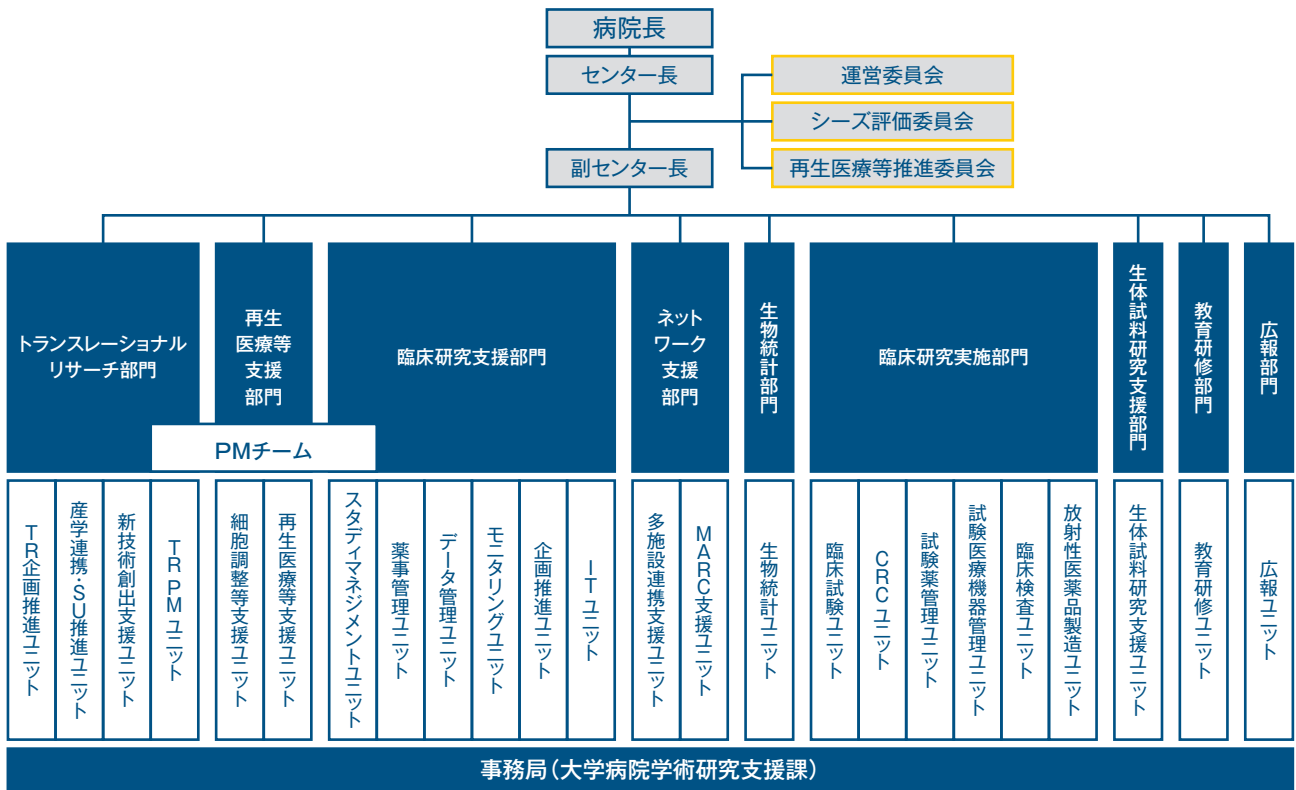
臨床研究推進センターは、ミッションとして「社会のニーズに応じた適切な医療が提供できるよう、より優れた医療技術を常に探求し、人類の健康増進に寄与する」を掲げ、研究室から生まれる基礎研究の成果を安全で有効な医療手段として患者さんにお届けするため、研究開発の各段階に必要な各種業務のエキスパートによる支援を行っています。また、センター運営委員会やシーズ評価委員会を設け、切れ目ない研究開発支援を可能とする体制としています。

臨床研究推進センターの詳細はWebサイトをご覧ください。

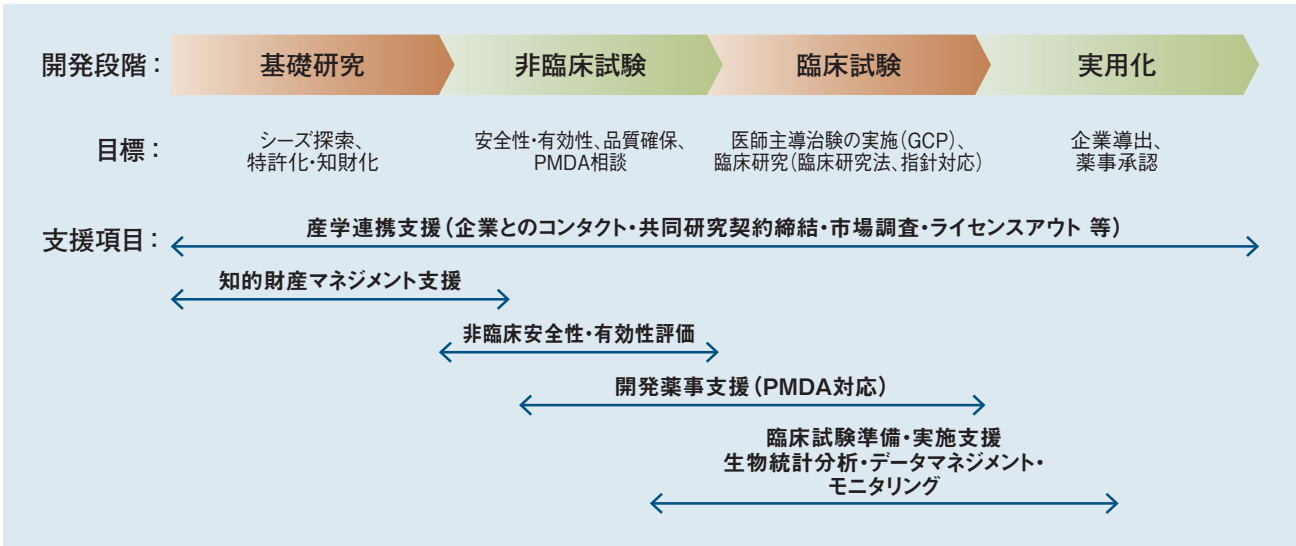
▶ <https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究推進センターの組織・支援体制



シーズの開発段階に応じた支援業務



臨床研究監理センター

臨床研究監理センターは、慶應義塾大学病院の理念および臨床研究実施方針に基づく臨床研究や治験の適正な実施のため、2019年8月に設置された組織です。

法令や倫理指針等により病院長の責務として定められた事項を補佐することを目的に、以下の業務を行っています。

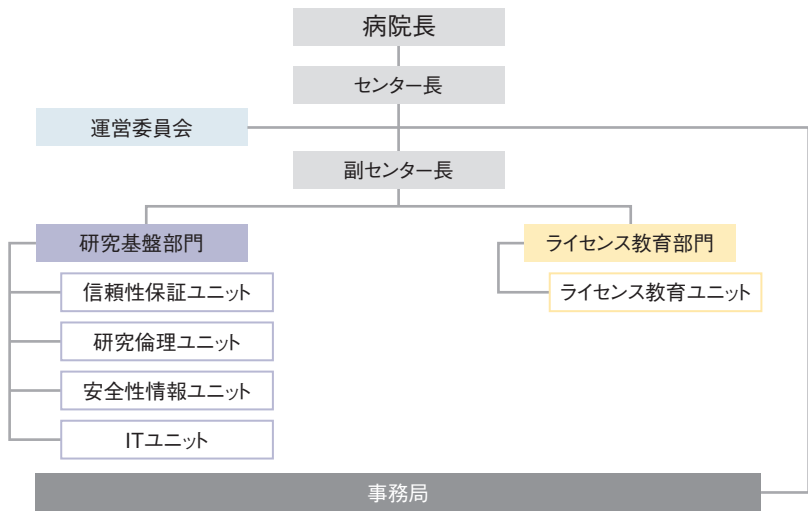
1. 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施
2. 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施
3. 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応
4. 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務
5. その他、病院長の指示する業務

臨床研究監理センターの詳細は、同センターWebサイトをご覧ください。

▶ <https://www.crea.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究監理センターの組織・支援体制



病院の先進的な取り組み

▶ AIホスピタル事業

慶應義塾大学病院は2018年10月に内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択されました。これ以降、データの可視化・デジタル化、ロボットの導入、生成AIの活用、画像AI（内視鏡、X線）の活用、非接触・遠隔化技術の活用などのITやAI技術の実装に取り組んでまいりました。2023年10月からは厚生労働省「中小企業イノベーション創出推進事業」に採択され、スタートアップ企業と連携し、医療現場のニーズに即したサービスの技術開発を加速するため支援を行っています。この事業では、技術開発のみならず、開発された医療AIサービスを一元的に提供する「医療AIプラットフォーム」の実証、AIホスピタルシステム全体をパッケージとして全国の医療機関に普及させるために、信頼性の高いサービスの提供・利用促進におけるガバナンス機能の整備を目的としています。当院では、スタートアップ企業5社と連携して以下のテーマに取り組んでいます。

- ・クラウド型リハビリテーション医療情報プラットフォームの構築と社会実装
- ・医療人材向けAIシフト作成機能の開発と社会実装
- ・E-skin ECGを用いた郵送心電計検査の社会実装
- ・救急医療業務改善ツールの開発と社会実装
- ・高度先進病院特化カスタマイズ支援AI問診票の実装

また、病院WebサイトではAI技術を活用した取り組みを紹介しています。現在、国内のみならず海外からも多くの見学者が来訪されています。見学をご希望の方は右記Webページをご覧ください。

過去に開発実装したプロジェクトも継続しながら、今後もIT・AI技術を活用し、患者さんに安心・安全かつ高度で先進的な医療サービスの提供に努めてまいります。



「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」により導入した病床管理のコマンドセンター



AI技術を活用した取り組みを紹介した病院Webサイト

▶ <https://www.hosp.keio.ac.jp/about/feature/aihospital/>



研究

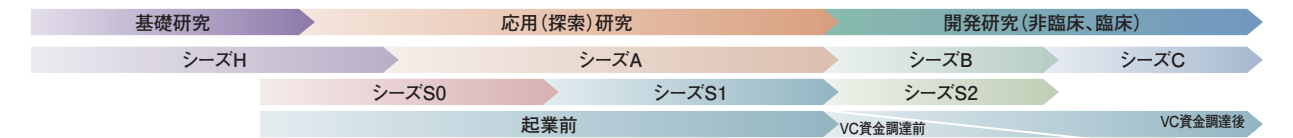
革新的医療技術創出拠点

(橋渡し研究支援機関・臨床研究中核病院)としての取り組み

橋渡し研究支援

2021年12月、慶應義塾は、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援する「橋渡し研究支援機関」として文部科学大臣から認定を受けました。基礎研究の成果(研究シーズ)を早期に臨床応用・実用化につなげるため、当院臨床研究推進センターにて開発支援をし、各研究のステップに応じた必要な支援体制を整えています。2019年度からは医療分野外からの医療応用可能な技術(異分野融合型: シーズH)を発掘・育成する取り組みを開始し、これまでにない革新的な医療技術の実用化を推進しています。これらの研究シーズのうち、シーズCに移行したものは、臨床研究中核病院である当院を中心に特定臨床研究や医師主導治験が実施されています。

また、2024年度から大学発医療系スタートアップ支援プログラム支援拠点として採択され、医療系スタートアップの発掘・支援・育成を通して、企業導出だけではなく社会実装の実現を推進しています。



研究段階と各シーズの位置づけ	シーズH:異分野融合型(要素技術の原理確認を実施する)課題															
	シーズA:開発候補品の獲得・製品コンセプトの決定・特許戦略の構築を目指す課題															
	シーズB:非臨床POC取得(GLP試験)と治験届出を目指す課題															
	シーズC:医師主導治験を実施し、臨床POCの取得を目指す課題															
	シーズS0:若手対象。支援終了時までに事業計画の策定を目指す シーズS1:起業前対象。支援終了時までに資金調達に関してVC等と対話を実施した上で、起業を目指す シーズS2:起業直後対象。支援終了時までに自走可能な民間資金の獲得を目指す															

各シーズの領域別支援課題数

2025年7月26日現在の支援シーズは合計171件

シーズ	精神	神経	眼	耳鼻 咽喉	歯	呼吸 器	循環 器	消化 器	腎	泌尿 器	生殖 器	血液	筋・ 骨格	皮膚	がん	免疫	内分 泌	感染	疼痛	小児	その他	重複を 除く合計
H: 異分野融合型	0	2	0	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	10	0	1	4	0	0	4	29
A: 基礎研究	1	5	0	2	0	3	5	7	1	2	2	2	3	1	15	3	2	7	1	1	6	69
B: 非臨床試験	1	12	2	0	0	2	3	8	1	2	0	0	5	2	8	1	1	2	0	1	0	51
C: 臨床試験	0	2	1	2	0	1	3	0	0	0	1	0	2	3	5	0	0	1	0	0	0	21
S: スタートアップ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

橋渡し研究支援による主要な研究領域

がん(65件)	シーズ開発の中で最多の件数を占めるのは、がんを対象としたシーズであり、医薬品・医療機器・再生医療等製品の薬事承認申請に向けて研究開発を進めています。 慶應義塾大学病院免疫統括医療センターにおいて、診療科横断的に免疫疾患に対する生物学的製剤治療を実施するとともに、新規治療法の開発を進めています。 国の進める再生医療実現の事業拠点の1つとして、iPS細胞を用いた再生医療をはじめとしたさまざまな治療法の実用化を推進しています(対象例:脊髄、心筋、角膜等)。
免疫(15件)	
再生医療(24件)	

橋渡し研究支援における首都圏ARコンソーシアム(MARC)との連携

MARC(Metropolitan Academic Research Consortium)はアカデミア発・日本発の革新的な医薬品・医療機器等を医療現場に届けるために、首都圏の私立医科大学をはじめとした臨床研究機関が連携・協力関係を結び、アカデミアの基礎研究成果を実用化につなげる非臨床・臨床一体型の橋渡し研究体制を構築し、人材育成や情報共有を図ることを目的として、2017年1月に設立され、その後は着実に加盟機関を増やし、2022年4月に一般社団法人として法人化されました。臨床研究推進センターでは、今後もMARCとの連携を継続しながら、外部シーズも含めた幅広い橋渡し研究支援を行ってまいります。

MARC Webサイト ▶ <https://marc-med.org/>

再生医療の推進

当院では、iPS細胞等を用いた臨床研究推進モデル病院として、整形外科、産婦人科、外科、循環器内科、眼科等において再生医療の臨床研究を開始するとともに、細胞培養加工や規制対応等も含めて支援が行える基盤整備を進めています。

(国研)日本医療研究開発機構 再生医療等実用化基盤整備促進事業

再生医療等推進モデル病院の充実(令和6～8年度)

▶ <https://www.amed.go.jp/program/list/13/01/09.html>

また、安全で有効な再生医療を促進するための取り組みの1つとして、再生医療等製品の製造支援のために、手術などで摘出され、通常は廃棄される組織や細胞を、倫理委員会等の所定の院内手続きに従い、あらかじめ患者さんの同意を得た上で、再生医療等製品を製造しようとする製薬企業等に、継続的に、かつ安定した品質で提供することで、再生医療等製品の開発の活性化を目指す事業を行っています。

▶ <https://tissue-procurement.hosp.keio.ac.jp/>

※本事業は、令和3～5年度(国研)日本医療研究開発機構 再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業「再生医療等製品用ヒト(同種)体性幹細胞原料の安定供給促進事業」に採択されました。



基礎・臨床一体型の教育 - 未来を拓く医療人の育成を目指して -

初代医学部長・病院長の北里柴三郎博士が提唱したのは、「基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く」という基本理念でした。さまざまな症例の実績を持つ慶應義塾大学病院は、臨床の現場から、患者さん一人ひとりに適切な医療を提供することを通じて、次世代の良質な医療に発展させ、医療に加えて臨床研究においても先導的な役割を果たしています。

この「基礎・臨床一体型の理念」は、患者さん中心の医療を実践するプロフェッショナリズムに根づいた慶應義塾大学病院の未来を拓く医療人材育成のバックボーンとして、今日に至るまで脈々と息づいています。

1 医師の育成

<卒前医学教育>

臨床実習

慶應義塾大学医学部では、第4学年3学期から第6学年2学期まで臨床実習が行われます。臨床実習では5～7名の小グループに分かれて各診療科をまわり、直接患者さんに接することで医学・医療的な知識を深め技術を高めるとともに、責任感や指導力、協調性など、医療に携わる者として不可欠な能力を習得します。近年、臨床実習の重要性が増しており、慶應義塾大学でもその充実化を図っています。

臨床実習には、診療科により診療参加型と見学型の2つの方法があります。近年主流になっている診療参加型臨床実習とは、学生が医療チームの一員となって研修医、指導医とともに診療にあたり、その過程で臨床医学を学ぶ方法です。学生が実際に診断や治療方針の最終決定をすることはありますが、自分の力で患者さんから話を聞き、診察をして、診断や治療を考える機会を与えられます。また、臨床に直接参加することによって勉学への強い動機づけが得られます。

<卒後医学教育>

臨床研修

臨床研修プログラムは、医師としての基本的な知識と診療技能、考え方や行動規範を学ぶことを目的としています。慶應義塾大学病院は多数の優秀な指導医を擁しており、最高の研修環境が整備されています。また、先輩の後期研修医（専修医）による直接的な研修指導、生活や進路面での相談など、直近の上級医とのコミュニケーションも円滑に行われています。

専門研修

慶應義塾大学病院では、専門研修を通じて、専門知識・技術と豊かな人間性を兼ね備え、患者さんと医療スタッフから信頼される専門医を育成しています。

さらに、大学病院での研修に加え、関連施設と緊密に連携して、専門診療のほかプライマリ・ケア、地域医療から集学的医療・高度先進医療まで、それぞれのキャリア・パスに沿った多彩な研修プログラムが行われています。



シミュレーターを活用した臨床実習



形成外科学教室における臨床実習



臨床研修におけるクリニカルシミュレーションラボでのトレーニング

慶應義塾大学 医療系学部・大学院学生数(人) (2024年度)

大学院	医学研究科	380
	健康マネジメント研究科	141
	薬学研究科	159
大学	医学部	669
	看護医療学部	453
	薬学部	1,187

医師研修受け入れ人数(人) (2024年度)

臨床研修(研修医課程)	122
専門研修(専修医課程)	718

上記のほか、専門職を目指す実習生を学外から171人(2024年度延べ)受け入れました。

2 看護師・薬剤師の育成

看護医療学部生・薬学部生 臨床実習

看護医療学部生・薬学部生は、病棟、外来、薬剤調剤、調製室などをフィールドに臨床実習を行い、看護師や薬剤師の指導のもと、チーム医療の実践を学んでいます。臨床実習は医療の実践を知る貴重な場であり、学部と病院看護部、薬剤部が協同して取り組み、よりよい人材の育成を目指しています。

三学部合同教育

慶應義塾大学では、医療系三学部(医学部、看護医療学部、薬学部)で合同教育を行い、学生のうちから多職種間の交流を深め、将来、患者さん中心のグループアプローチによる医療が実践できる医療人に成長することをサポートしています。

2023年度から三学部合同特別実習を稚内市などで行っています。

詳細 ▶ <https://ipe.keio.ac.jp/>



医療系三学部合同臨床実習



3 メディカルスタッフの育成

2012年度より、現場力の向上を目的として、メディカルスタッフを対象とした研修を行っています。各職場で生じている課題をテーマに、収支改善を意識した問題解決のトレーニングを行います。多職種からなるグループで検討することにより、課題解決能力を向上させるとともに、職場の活性化やチーム医療推進の一翼を担っています。

4 病院経営人材の育成

慶應義塾大学は、2017年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択されました。これに基づき、健康マネジメント研究科・経営管理研究科・医学研究科・大学病院が協働して、構想力、戦略的な意思決定、実行力に富んだ病院の経営リーダーを育成することを目的とした病院経営人材育成プログラムを開始し、2018年度以降、各年度3名ずつ病院から派遣しています。慶應型ケースメソッドをベースとする本プログラムは、その成果を公開し、他大学・大学病院や地域基幹病院の経営人材育成にも広く資することを目指しています。

5 外部からの実習生受け入れ

外部施設より多職種の学生実習を受け入れています。(右表参照) 学生は、病院というフィールドで医療者とともに実習し、高度医療とともに患者さん中心のチーム医療の実践を学んでいます。

看護師や臨床検査技師の領域では、有資格者の上級資格取得を目的とした臨床実習を、他医療機関から受け入れて行っています。また、地域の若手リハビリ技士の実習も受け入れ、地域の医療者育成のための実習などを行い、医療の質向上に貢献しています。


学生臨床実習受け入れ状況 (2024年度)


受け入れ部門	実習受け入れ施設数
リハビリテーション科(OT・PT・ST)	5
放射線技術室(診療放射線技師)	7
看護部(専門看護師・認定看護師)	6
食養管理室(管理栄養士)	6
眼科(視能訓練士)	2
医用工学室(臨床工学技士)	6
臨床検査技術室(臨床検査技師)	9
歯科・口腔外科(歯科衛生士)	3
医事統括室	3
医学部	6

沿革 – 慶應義塾大学 医学部・病院のあゆみ –

1835年	福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷で誕生
	
	福澤諭吉
1855年	福澤諭吉、緒方洪庵の適塾に入門
1858年	慶應義塾開塾 江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く
1860年	福澤諭吉、はじめての外遊 咸臨丸で渡米
1862年	福澤諭吉、遣欧使節として欧州各国を巡歴
1868年	慶應義塾と命名
1871年	慶應義塾、三田に移転
1873年	三田山上に「慶應義塾医学所」設立（～1880年）
1890年	大学部を発足し、文学・理財・法律3科を設置
1892年	北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立
	
	北里柴三郎博士
1893年	北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立
1901年	2月3日、福澤諭吉逝去
1917年	慶應義塾大学部医学科開設 4月、医学科予科の授業を三田山上で開始 11月、四谷区信濃町の陸軍用地を購入
1918年	医学科附属看護婦養成所開設（～1950年）
1920年	4月、文学・経済学・法学・医学の4学部からなる総合大学へ 11月6日、医学部開校ならびに大学院開院式 11月8日、慶應医学会第一回総会開催 翌大正10（1921）年「慶應醫學」創刊
	  
	1920年大学病院開院式 開院当時の病院全景 開院当時の病院玄関内部
1922年	医学部附属産婆養成所開設
1923年	関東大震災（火災にあった病院の救済・診療を支援。32万4千人以上の患者を診療）
1924年	大学病院特別病棟竣工
1926年	食養研究所設立（～1990年）
1928年	多磨墓地に医学研究に献体されたご遺体を葬り冥福を祈るための納骨堂建設 第一回の解剖諸霊供養法会を芝増上寺で開催
1929年	ロックフェラー財団寄付により、予防医学校舎竣工
1932年	新赤倉温泉の地に三代会、赤倉山荘建設 （昭和35（1960）年焼失、平成6（1994）年再建） 病院別館竣工 （鉄筋コンクリート地下1階地上4階建、219病床）
1934年	福澤諭吉生誕100年ならびに日吉開校記念祝賀会開催
1936年	日吉第二校舎竣工、日吉キャンパスで医学部教育開始
1937年	北里記念医学図書館竣工 特殊薬化学研究所設立
1941年	月ヶ瀬温泉治療学研究所開設 昭和33（1958）年狩野川台風により流失、同年廃止
1944年	軍医不足という社会的要請を受け大学附属医学専門部を開設し、463名の人材を輩出（～1951年）

1945年	5月24日、空襲により医学部・病院施設の約6割焼失 8月15日、終戦
1946年	基礎医学教室、武蔵野分校へ移転（～1956年春）
1948年	病院本館竣工（戦後最大の木造建築2階建、153病床）
	 
	病院本館玄関 病院本館受付
1950年	エール大学ロング教授らを招聘し、CPC（臨床・病理症例検討会）開始 電子顕微鏡研究室開室 医学部附属厚生女子学院開設（～1988年）
	
	医学部附属厚生女子学院卒業式
1952年	新制大学医学部発足 “The Keio Journal of Medicine”創刊 北里柴三郎博士生誕100年 三四会より第一回北里賞授与
1955年	進学課程2年、専門課程4年の戦後の医学教育体系確立
1956年	大学院医学研究科（博士課程）設置
1958年	慶應義塾創立100年記念式典
1961年	米国チャイナ・メディカル・ボードの寄付を受け、基礎医学第二校舎竣工
1963年	病院中央棟竣工
1965年	病院1号棟竣工
1966年	「財団法人慶應がんセンター」発足（～2002年）
1967年	医学部創立50周年記念式
	
	医学部創立50周年記念式
1969年	「医学部改革委員会」設置、臨床講堂竣工
1970年	「財団法人慶應健康相談センター」発足（～2008年）
1972年	北里記念医学図書館（1971年より医学情報センター）の情報サービス部門を独立、「財団法人国際医学情報センター」発足
1973年	病院ボランティア導入（日本病院ボランティア協会に入会）
1974年	三重県伊勢市の病院の寄付を受け、慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院（～2003年）
1977年	月ヶ瀬リハビリテーション・センター開設（～2011年）
1979年	医学部共同利用R.I.（ラジオアイソトープ）研究棟竣工
1983年	慶應義塾創立125年記念式典
1984年	米国医科大学での学生臨床研修開始
1986年	大学病院新棟（現2号館）竣工
	 
	大学病院新棟（現2号館）開院当時の病院全景 大学病院正面玄関
1988年	看護短期大学開設（～2001年）
1990年	第一回自主学習成果発表会

1994年	特定機能病院として認定 大学院医学研究科（修士課程）設置
1996年	医学部新教育研究棟竣工 坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による 第一回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催
2001年	看護医療学部開設 総合医科学研究棟竣工・ リサーチパーク発足
	
	総合医科学研究棟
2007年	クリニカルリサーチセンター発足 「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」設置（～2008年3月）
2008年	共立薬科大学との合併により、薬学部開設 慶應義塾創立150年記念式典 臨床研究棟竣工

2010年	3号館（北棟）竣工
2011年	東日本大震災、慶應義塾救援医療団派遣 医療系三学部（医看薬）による合同教育開始
2012年	総合医療情報システム（電子カルテ）導入 3号館（南棟）竣工・予防医療センター開設
2015年	1号館（Ⅰ期棟）竣工
2016年	臨床研究中核病院として認定
2017年	医学部開設100年 JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター（通称JKIC）開所
2018年	1号館（Ⅱ期棟）竣工・1号館開院 慶應看護100年
2020年	大学病院開院100年
2022年	大学病院グランドオープン
	
	大学病院グランドオープン時の病院外観
2023年	予防医療センターが麻布台ヒルズに移転

福澤諭吉と北里柴三郎

福澤諭吉が北里柴三郎に贈った『贈医（医に贈る）』という言葉

慶應義塾の創立者である福澤諭吉は日本の文明開化の精神的支柱を打ち立て、『学問のすゝめ』等の多くの著作や多くの言葉を残しました。のちに初代医学部長となる北里柴三郎博士が、伝染病研究所の設立に尽力した時に、福澤は北里に『贈医（医に贈る）』と命名した七言絶句の漢詩を贈っています。その意味は概略すると以下ようになります。

医学は天と人との限りの無い勝負である。医師よ『自然（の回復）を助ける立場である』などと言わないでもらいたい。離婁^{*1}のような眼力と、麻姑^{*2}のような手によって、手段をつくすことこそ医学の真髄なのだ。

※1 離婁[リロウ] 中国の古伝説上の名。百歩離れた場所にある毛ほどの小さいものも見ることができるといわれる視力をもつという。

※2 麻姑[マコ] 仙女の名。美しく、手のつめが長く、鳥のようだったという。「孫の手」は麻姑の手が語源とされる。

福澤諭吉と北里柴三郎（『慶應義塾豆百科』より）

人の一生にとって、ある出会いがその人の生涯を決めることがある。北里柴三郎の場合も、福澤先生と出会ったことが、彼の人生行路を決定づける上で、大きな役割を果たしたことは否み得ない。北里は熊本の人で、東京医学校を卒えるや内務省衛生局に入り、当時の局長長と専斎の知遇を得、明治18年（1885年）ドイツに留学、コッホに師事して細菌学を学び、破傷風菌の純粋培養と血清療法を発見するなど、数多くのすぐれた研究成果を挙げ、明治25年（1892年）に帰朝した。当時の日本は衛生状態もきわめて悪く、各種の伝染病が流行していた。北里は1日も早く伝染病研究所を設立することの急務を説いたが、そこには多くの困難があった。北里の終始変わらぬ庇護者であった長与はこうした北里の窮状を福澤先生に打ち明けその援助を求めたのである。先生にとって長与は緒方塾以来の親友であり、かつ北里の業績にもかかねてから注目していただけない、早速同年10月4日付の時事新報に「医術の新発見」と題する社説を掲げて彼の業績を紹介するとともに、知友の実業家森村市左衛門と協力して芝公園の御成門脇に研究所を建て、北里の使用に供したのであった。伝染病研究所としてはわが国嚆矢のものである。この研究所はその後大日本私立衛生会の所管となり、場所も芝愛宕下に移ったが、その時も地域住民の激しい反対に対し、先生は時事新報紙上で情理を尽くして説得に当たったことも、北里には忘れられ得ぬ感銘であった。

さらに明治32年（1899年）には国立に移管されたが、その際も福澤先生は政府の方針でいつ施策が変わるかも知れないから、それに備えて資金を蓄えておくよう助言を与えたのであった。そればかりか明治26年（1893年）に北里をして芝白金に結核療養所土筆（つくし）ヶ岡養生園を建てさせ、万一の場合に備えさせることにしたのである。果たせるかな大正3年（1914年）、政府は北里に一言の相談もなく、研究所の所管を内務省から文部省に移し、東京大学の傘下に入れるよう組織がえを図ったのである。北里は断然職を辞し、福澤先生の助言で用意しておいた私財30万円を投じて養生園の敷地内に新たに研究所を興した。今日の北里研究所がそれである。従って大正6年（1917年）、慶應義塾が医学部開設に際し、北里自身が門下の俊秀を率いてその創設に心血を注いだのは、福澤先生との出会いによって受けた過去の恩誼に、いささかでも報いたい気持ちからであったことはたしかであろう。

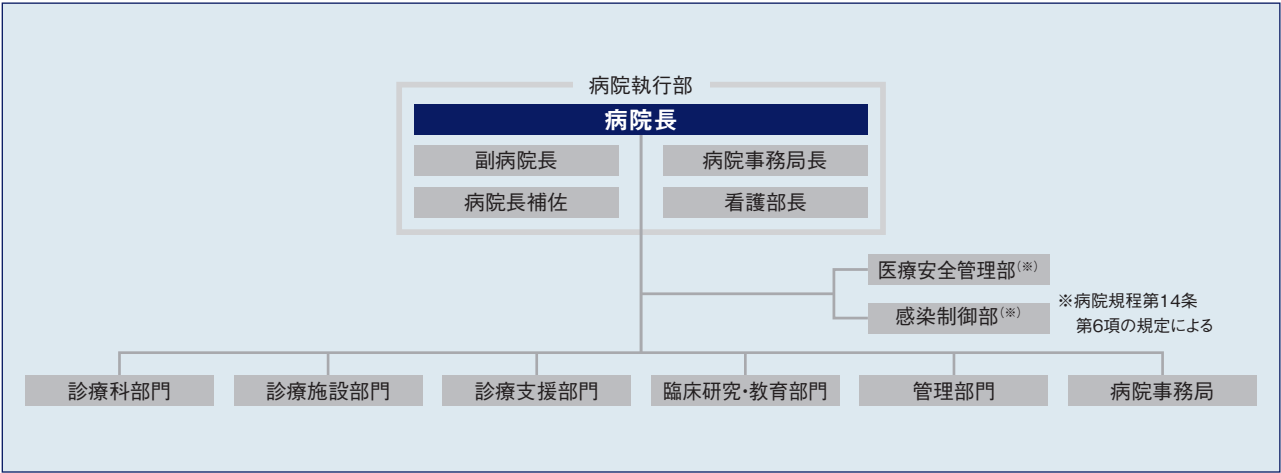


贈医の七言絶句

組織

運営体制

(2025年10月1日時点)



組織の構成

(2025年10月1日時点)

病院執行部

病院長	(管理者)	福永興壱
副病院長		戸田正博
副病院長		佐々木 淳 一
副病院長		金子祐子
副病院長		内田裕之
副病院長		鳴海覚志
副病院長		朝倉啓介

病院長補佐	山上亘
病院長補佐	加藤元彦
病院長補佐	本間康一郎
病院事務局長	古田正
看護部長	加藤恵里子

診療科部門

呼吸器内科	診療科部長(准教授)	安田浩之
循環器内科	診療科部長(教授)	家田真樹
消化器内科	診療科部長(教授)	金井隆典
腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長(教授)	林 香
神経内科	診療科部長(教授)	中原 仁
血液内科	診療科部長(教授)	片岡圭亮
リウマチ・膠原病内科	診療科部長(教授)	金子祐子
一般・消化器外科	診療科部長(准教授)	尾原秀明
呼吸器外科	診療科部長(教授)	朝倉啓介
心臓血管外科	診療科部長(教授)	志水秀行
小児外科	診療科部長(教授)	藤野明浩
乳腺外科	診療科部長(教授)	林田 哲
脳神経外科	診療科部長(教授)	戸田正博
整形外科	診療科部長(教授)	中村雅也
リハビリテーション科	診療科部長(教授)	辻 哲 也
形成外科	診療科部長(教授)	貴志和生
小児科	診療科部長(教授)	鳴海覚志

産科	診療科部長(教授)	田中 守
婦人科	診療科部長(教授)	山上 亘
眼科	診療科部長(教授)	根岸 一 乃
皮膚科	診療科部長(准教授)	船越 建
泌尿器科	診療科部長(教授)	大家基嗣
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科部長(教授)	小澤宏之
精神・神経科	診療科部長(教授)	内田裕之
放射線治療科	診療科部長(教授)	武田篤也
放射線診断科	診療科部長(教授)	陣崎雅弘
麻酔科	診療科部長(教授)	山田高成
救急科	診療科部長(教授)	佐々木 淳 一
歯科・口腔外科	診療科部長(教授)	中川種昭
総合診療科	診療科部長(教授)	佐々木 淳 一
臨床検査科	診療科部長(教授)	松下弘道
病理診断科	診療科部長(教授)	関根茂樹

診療施設部門

予防医療センター	センター長(教授)	高石官均
血液浄化・透析センター	センター長(教授)	林 香
内視鏡センター	センター長(教授)	加藤元彦
腫瘍センター	センター長(教授)	山上 亘
輸血・細胞療法センター	センター長(教授)	山崎理絵
スポーツ医学総合センター	センター長(教授)	佐藤和毅
漢方医学センター	センター長(教授)	金子祐子
臨床遺伝学センター	センター長(教授)	小崎健次郎
免疫統括医療センター	センター長(教授)	金子祐子
緩和ケアセンター	センター長(専任講師)	竹内麻理
手術・血管造影センター	センター長(教授)	朝倉啓介
集中治療センター	センター長(教授)	佐々木 淳 一
救急センター	センター長(教授)	佐々木 淳 一
臨床感染症センター	センター長(教授)	南宮 湖
がんゲノム医療センター	センター長(教授)	西原広史
周術期センター	センター長(教授)	朝倉啓介

診療支援部門

看護部	部長	加藤恵里子
薬剤部	部長(教授)	大谷 壽 一
滅菌管理部	部長(准教授)	尾原秀明
食養管理室	室長代理	大木 いつみ
医用工学室	室長(教授)	佐々木 淳 一
放射線技術室	室長	布川嘉信
臨床検査技術室	室長代理	荒井智子

臨床研究・教育部門

臨床研究推進センター	センター長(教授)	金子祐子
臨床研究監理センター	センター長(教授)	戸田正博
卒後臨床研修センター	センター長(准教授)	山口慎太郎

管理部門

病院情報システム部	部長(教授)	陣崎雅弘
医療安全管理部	部長(教授)	朝倉啓介
感染制御部	部長(教授)	南宮 湖
患者総合相談部	部長(教授)	内田裕之
医療連携推進部	部長(教授)	鳴海覚志
放射線安全管理室	室長(教授)	井上浩義
医療保険指導部	部長(准教授)	小杉志都子
国際診療部	部長(准教授)	香坂 俊

病院事務局

経営企画室	医事統括室	秘書室
総務課	人事課	経理課
管財課	キャリア開発室	学術研究支援課
調達会計課		

診療クラスター

IBD(炎症性腸疾患)センター	センター長(教授)	金井隆典
周産期・小児医療センター	センター長(教授)	田中 守
母斑症センター	センター長(教授)	鳴海覚志
プレストセンター	センター長(教授)	林田 哲
骨転移診療センター	センター長(専任講師)	中山ロバート
痛み診療センター	センター長(准教授)	小杉志都子
消化器センター	センター長(教授)	金井隆典
呼吸器センター	センター長(教授)	朝倉啓介
メモリーセンター	センター長(特任教授)	伊東大介
睡眠センター	センター長(助教)	山澤稚子
臓器移植センター	センター長(准教授)	尾原秀明
循環器センター	センター長(教授)	志水秀行
小児頭蓋顔面(クラニオ)センター	センター長(教授)	貴志和生
リプロダクションセンター	センター長(准教授)	山田満穂
アレルギーセンター	センター長(教授)	鳴海覚志
性分化疾患(DSD)センター	センター長(講師)	長谷川 奉 延
糖尿病先制医療センター	センター長(専任講師)	目黒 周
頭蓋底センター	センター長(教授)	戸田正博
脳卒中センター	センター長(教授)	戸田正博
遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)センター	センター長(教授)	小崎健次郎
側弯症診療センター	センター長(准教授)	渡邊航太
腸管機能リハビリテーションセンター	センター長(教授)	藤野明浩
血管腫・血管奇形センター	センター長(専任講師)	荒牧典子
リンパ浮腫診療センター	センター長(教授)	辻 哲 也
パーキンソン病センター	センター長(教授)	中原 仁
ロボット支援手術センター	センター長(専任講師)	松本 一 宏
大血管浸潤腫瘍治療センター	センター長(准教授)	尾原秀明
メンタルヘルス・リエゾンセンター	センター長(教授)	内田裕之
聴覚センター	センター長(准教授)	大石直樹
ニューロモデュレーションセンター	センター長(准教授)	川上途行
スポーツ&メディカルフィットネスセンター	センター長(教授)	佐藤和毅
オリゴ転移センター	センター長(教授)	武田篤也

※順不同

役割と機能

特定機能病院　－さまざまな連携と適切な医療の実践－

患者さん一人ひとりの症状に合った適切な医療を提供するために、病院、診療所、クリニックといった各医療機関は、それぞれが持つ機能によってさまざまな役割を担っています。その中で慶應義塾大学病院は、国や自治体から「特定機能病院」「地域がん診療連携拠点病院」といった役割の指定を受けています。

当院では、高度な医療を提供するとともに、高度な研究・開発・研修を行う「特定機能病院」として、一般の医療機関では実施することが難しい専門医療を必要とする患者さんや、病気が進行中の急性期の患者さんの治療を行うため、他の病院や診療所から紹介を受けた患者さんの診療を行っています。また、継続的なフォローアップなど、患者さんにとって地元の医療機関の方が通院に適切な場合、紹介元の医療機関やご希望の医療機関へ逆紹介を積極的に行っています。

また、当院では、下記をはじめとする、さまざまな体制で、他の医療機関と、より結びつきの強い連携を行っています。

連携機関	慶應義塾大学関連病院会	慶應義塾大学医学部三代会医療機関
	医療連携協定締結医療機関（慶應メディカルパートナー）	地域医療機関・看護・介護・保健機関
	救急連携医療機関	その他

臨床研究中核病院

臨床研究中核病院は、日本発の革新的な医薬品・医療機器・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、厚生労働大臣が承認するものです。承認要件として、臨床研究計画の立案と実施の実績、臨床研究支援体制、データ管理体制、安全管理体制、倫理審査体制、利益相反管理体制、知的財産管理・技術移転体制、国民への普及・啓発および研究対象者への相談体制など、さまざまな体制整備が求められます。慶應義塾大学病院は2016年3月25日に、私立大学としては初めての承認を受けています。

承認指定（法令等による医療機関の承認指定等）

承認指定

名称
開設許可（承認）
特定機能病院
臨床研究中核病院
日本医療機能評価機構認定病院（一般病院3）
東京都災害拠点病院
日本DMAT指定医療機関
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
エイズ中核拠点病院
臓器移植登録施設（肝臓、小腸、腎臓）
臨床修練指定病院（外国医師・外国歯科医師）
東京都アレルギー疾患医療拠点病院
がんゲノム医療中核拠点病院
地域リハビリテーション支援センター
結核患者収容モデル事業実施病院
臨床研修病院（基幹型・協力型）
歯科医師臨床研修施設
東京都難病診療連携拠点病院
東京都小児がん診療病院

法令による医療機関の指定

名称
消防法（救急医療）
健康保険法（保険医療機関）
国民健康保険法（療養取扱機関）
労働者災害補償保険法
地方公務員災害補償法
被爆者援護法
戦傷病者特別援護法
母子保健法
生活保護法
児童福祉法
難病法
障害者総合支援法
精神保健福祉法
感染症法（結核指定医療機関・第二種感染症指定医療機関・第一種協定指定医療機関・第二種協定指定医療機関）
中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律

先進医療

先進医療は、国民の安全性確保と患者負担の増大防止という2つの観点を踏まえつつ、国内未承認・保険適用外の医薬品・医療機器について将来的な保険適用のための評価を行うもの（評価療養）として、特例として保険診療との併用が認められる制度です。医療技術ごとに一定の施設基準が設定されています。

慶應義塾大学病院で実施中の先進医療

名称		実施診療科	承認年月日
先進医療A	子宮内膜擦過術	産婦人科	2022年　9月　1日
	子宮内膜刺激術	産婦人科	2022年　9月　1日
	子宮内膜受容能検査1	産婦人科	2022年　9月　1日
	子宮内細菌叢検査1	産婦人科	2022年　9月　1日
	内視鏡的胃局所切除術	腫瘍センター	2022年11月　1日
	血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	一般・消化器外科	2024年　3月　1日
	膜構造を用いた生理学的精子選択術	産婦人科	2024年　8月　1日
	内視鏡的憩室隔壁切開術	腫瘍センター／内視鏡センター	2024年　8月　1日
先進医療B	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検／早期胃がん　※新規患者受入は終了しました	一般・消化器外科	2014年　1月　1日
	テモゾロミド用量強化療法／膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）※新規患者受入は終了しました	脳神経外科	2017年　1月　1日
	反復経頭蓋磁気刺激療法／薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	精神・神経科	2019年　5月　1日
	イマチニブ経口投与及びベムブロリズマブ静脈内投与の併用療法／進行期悪性黒色腫（KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。）	皮膚科	2020年　2月　1日
	抗腫瘍自己リンパ球移入療法／子宮頸癌（切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。）	産婦人科	2021年　1月　1日
	ネシツムマブ静脈内投与療法／切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん（食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。）※新規患者受入は終了しました	腫瘍センター	2022年　9月　1日
	生体肝移植術／切除が不可能な肝門部胆管がん	一般・消化器外科	2023年　4月　1日
	生体肝移植術／切除が不可能な転移性肝がん（大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。）	一般・消化器外科	2024年　1月　1日
	自家濃縮骨髄液局所注入療法／特発性大腿骨頭壊死症（非圧潰病期に限る。）	整形外科	2024年12月　1日

患者申出療養

患者申出療養は、患者さんの申出を起点に、国内未承認薬などを使用した先進的な医療を、安全性・有効性等を確認するなどの一定のルールにより保険診療との併用を認める、保険外併用療養費制度の中に位置づけられた制度です。将来の保険適用を目指し、国の指定を受けた病院（臨床研究中核病院）が臨床研究として計画し、病院および国の会議で十分に審議された上で実施されます。

ご参考：患者申出療養制度（厚生労働省Webサイト）

▶ <https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/>



慶應義塾大学病院で実施中の患者申出療養

名称	実施診療科	承認年月日
マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療（※通称　受け皿試験）／根治切除が不可能な進行固形がん（遺伝子プロファイリングにより、治療対象となる遺伝子異常が確認されたものに限る。）	腫瘍センターほか	2020年12月24日
経皮的胸部悪性腫瘍凍結融解壊死療法／肺悪性腫瘍、縦隔悪性腫瘍、胸膜悪性腫瘍又は胸壁悪性腫瘍	呼吸器外科	2023年　4月14日

基礎データ

区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
許可病床数(床)	946	946	950	950	950
病床稼働率(%)	70.3	82.2	85.3	88.0	88.8
外来患者延べ人数(人)	725,794	836,773	872,905	867,005	869,446
1日平均外来患者数(人)	2,678	3,088	3,221	3,188	3,196
入院患者延べ人数(人)	244,268	283,696	295,888	305,974	307,987
1日平均入院患者数(人)	669	777	811	836	844
平均在院日数(日)	12.0	11.5	11.5	11.1	10.7
手術件数(件)	12,280	15,204	16,020	16,742	17,133
手術全身麻酔件数(件)	6,755	8,206	8,615	8,782	9,045
救急患者数(人)	7,442	12,201	14,122	15,975	14,406
紹介率(%)	73.2	78.7	81.3	84.6	77.7
逆紹介率(%)	48.7	48.8	66.8	83.1	87.9
分娩件数(件)	472	670	800	859	818
セカンドオピニオン(人)	237	345	436	491	474

※許可病床数は各年度3月31日時点の病床数。

外来患者数(人)	(2024年度)	入院患者数(人)	(2024年度)
年間新規患者数	40,977	年間新規患者数	27,917
年間延べ患者数(再掲)	869,446	年間延べ患者数(再掲)	307,987
1日平均患者数(再掲)	3,196	1日平均患者数(再掲)	844

診療科別データ

診療科名	外来患者数					
	年間			1日平均		
	初診	再診	合計	初診	再診	合計
呼吸器内科	1,083	38,228	39,311	4	141	145
循環器内科	1,322	43,248	44,570	5	159	164
消化器内科	2,026	76,695	78,721	7	282	289
腎臓・内分泌・代謝内科	633	55,997	56,630	2	206	208
神経内科	749	27,071	27,820	3	100	102
血液内科	286	15,819	16,105	1	58	59
リウマチ・膠原病内科	494	32,986	33,480	2	121	123
一般・消化器外科	713	31,232	31,945	3	115	117
呼吸器外科	599	8,030	8,629	2	30	32
心臓血管外科	139	6,321	6,460	1	23	24
脳神経外科	766	11,364	12,130	3	42	45
小児外科	243	3,996	4,239	1	15	16
整形外科	3,727	55,287	59,014	14	203	217
リハビリテーション科	92	7,706	7,798	0	28	29
形成外科	1,055	12,021	13,076	4	44	48
小児科	2,036	20,917	22,953	7	77	84
産婦人科	2,524	55,190	57,714	9	203	212
眼科	3,371	53,625	56,996	12	197	210
皮膚科	1,662	40,902	42,564	6	150	156
泌尿器科	994	40,036	41,030	4	147	151
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,780	29,559	31,339	7	109	115
精神・神経科	753	36,966	37,719	3	136	139
放射線治療科	95	14,908	15,003	0	55	55
放射線診断科	428	654	1,082	2	2	4
麻酔科	150	20,055	20,205	1	74	74
救急科	4,629	2,670	7,299	17	10	27
歯科・口腔外科	5,149	35,318	40,467	19	130	149
総合診療科	243	4,690	4,933	1	17	18
その他	3,236	46,978	50,214	12	173	185
合計	40,977	828,469	869,446	151	3,046	3,196

※1日平均を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

診療科名	入院患者数(人)		平均在院日数
	年間	1日平均	
	年間	1日平均	
呼吸器内科	19,988	55	12.3
循環器内科	19,201	53	7.4
消化器内科	29,102	80	8.3
腎臓・内分泌・代謝内科	7,942	22	9.2
神経内科	15,959	44	18.0
血液内科	18,175	50	27.6
リウマチ・膠原病内科	8,026	22	24.3
一般・消化器外科	29,544	81	12.6
呼吸器外科	6,542	18	7.3
心臓血管外科	8,160	22	13.9
脳神経外科	9,664	26	15.9
小児外科	2,943	8	7.0
整形外科	31,645	87	12.7
リハビリテーション科	1,548	4	23.4
形成外科	4,651	13	7.2
小児科	18,383	50	9.6
産婦人科	25,417	70	6.7
眼科	8,009	22	2.6
皮膚科	5,648	15	12.3
泌尿器科	13,322	36	7.6
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	9,663	26	11.0
精神・神経科	5,312	15	19.8
麻酔科	102	0	2.4
救急科	6,526	18	16.9
歯科・口腔外科	2,515	7	8.3
その他	0	0	0.0
合計	307,987	844	10.7

※1日平均・平均在院日数を表示する際に端数を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

保険手術実績一覧

各手術の区分は、厚生労働省の定める施設基準の分類に基づきます。

区分1に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2022年	2023年	2024年
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	146	155	155
イ 黄斑下手術等	493	561	623
ウ 鼓室形成手術等	76	82	81
エ 肺悪性腫瘍手術等	242	242	250
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	269	274	274

区分2に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2022年	2023年	2024年
ア 靱帯断裂形成手術等	76	84	78
イ 水頭症手術等	67	78	86
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	9	7	9
エ 尿道形成手術等	46	53	65
オ 角膜移植術	53	79	73
カ 肝切除術等	143	150	147
キ 子宮付属器悪性腫瘍手術等	82	83	111

区分3に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2022年	2023年	2024年
ア 上顎骨形成術等	25	39	29
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	18	20	25
ウ バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	3	3	2
エ 母指化手術等	3	7	7
オ 内反足手術等	0	0	0
カ 食道切除再建術等	7	15	11
キ 同種死体腎移植術等	6	15	8

診療科名	件数
内科	785
一般・消化器外科	1,666
呼吸器外科	653
心臓血管外科	423
脳神経外科	381
小児外科	183
整形外科	2,149
形成外科	945
産婦人科	2,403
眼科	3,850
皮膚科	493
泌尿器科	1,220
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	769
精神・神経科	452
麻酔科	20
救急科	204
歯科・口腔外科	416
その他	121
合計	17,133

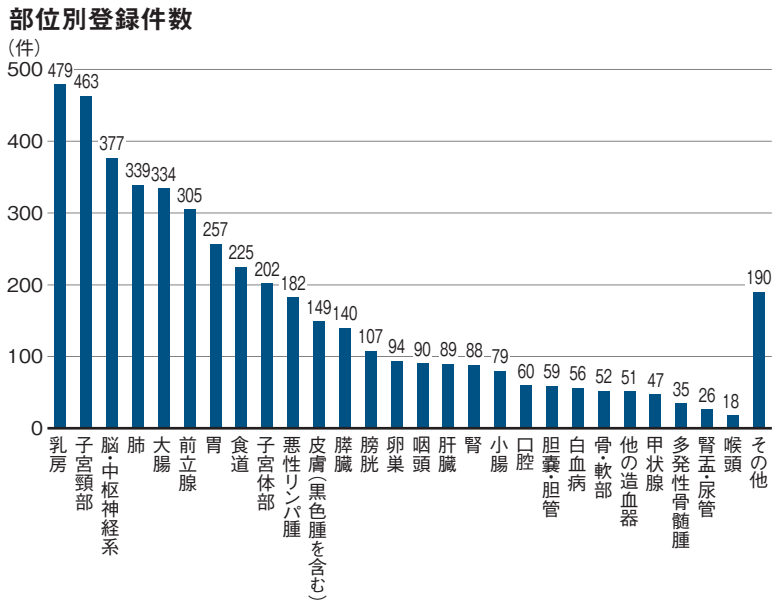
区分4に分類される手術一覧

該当する手術一覧	件数(例)		
	2022年	2023年	2024年
胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術	1,439	1,448	1,565

その他の手術

該当する手術一覧	件数(例)		
	2022年	2023年	2024年
5 人工関節置換術	494	500	490
6 乳児外科施設基準対象手術	5	4	2
7 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	122	112	119
8 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	223	235	253
9 経皮的冠動脈形成術	18	35	22
急性心筋梗塞に対するもの	2	1	1
不安定狭心症に対するもの	2	7	8
その他のもの	14	27	13
経皮的冠動脈粥腫切除術	0	0	1
経皮的冠動脈ステント留置術	165	123	113
急性心筋梗塞に対するもの	5	6	12
不安定狭心症に対するもの	14	18	15
その他のもの	146	99	86

院内がん登録件数



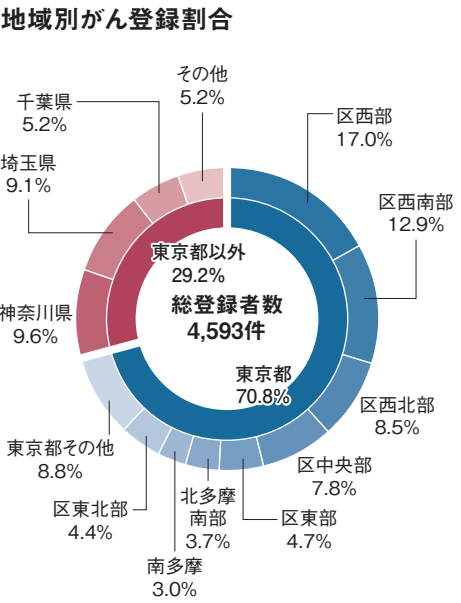
薬剤・輸血関連実績

内訳		件数等	
処方せん枚数(枚)	外	来：413,983 / 入	院：381,178
入院注射薬調製件数(件)	抗がん剤：	10,834 / 一般注射薬：	93,247
外来注射薬調製件数(件)	抗がん剤：	38,203 / 抗 体 製 剤：	12,776 / 一般注射薬：14,051
薬剤管理指導件数(件)	33,218		
輸血用血液製剤使用数(単位)	55,921		
輸血検査件数(件)	88,169		

教職員数(人)

内訳	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
臨床系医師(うち研修医)	905(88)	871(82)	875(77)	894(79)	883(75)
歯科医師(うち研修医)	39(15)	43(16)	41(15)	40(14)	40(15)
看護師	1,015	1,030	1,051	1,073	1,111
薬剤師	96	99	106	115	115
臨床検査技師	146	152	155	151	153
診療放射線技師	83	86	85	86	88
管理栄養士	13	13	14	15	15
栄養士	—	—	—	—	—
視能訓練士	14	14	16	18	19
臨床工学技士	29	31	32	34	37
理学療法士	13	13	14	16	17
作業療法士	4	4	4	4	4
言語聴覚士	5	6	6	6	6
その他技師	64	67	68	69	73
事務職員	224	226	223	226	249
技能員	84	71	73	72	74
教職員合計	2,734	2,726	2,763	2,819	2,884

地域別がん登録割合



画像・検体・生理機能検査実績

内訳	件数
単純撮影(健診含む)	174,393
CT	66,083
MRI	35,015
超音波(健診含む)	37,761
核医学 PET+SPECT	12,811
IVR(画像下治療)+血管造影	4,526
検体検査(輸血検査含まず)	10,242,815
生理機能検査	113,823

財務(事業活動収支内訳)

慶應義塾は学校法人会計基準に則って会計処理を行っています。下の表は基準に定められた計算書のうち、当該会計年度の事業活動収入と事業活動支出の内容および収支均衡の状態を明らかにするための事業活動収支計算書の形式で、医学部(信濃町メディアセンターを除く)と大学病院の合計額を表したものです。

また、大学病院の経費は、文部科学省の通知に従い、医療業務に要する経費は、教育研究経費のうち「医療経費」として処理し、その他の経費については、大学における処理と同様に、教育研究経費と管理経費に区分して処理しています。

(2024年度) (単位:千円)

科目		医学部・大学病院	慶應義塾全体
教育活動収支	事業活動収入の部		
	学生生徒等納付金	2,886,295	57,280,405
	手数料	94,058	2,148,850
	寄付金	1,443,377	4,627,164
	経常費等補助金	3,391,520	16,276,280
	付随事業収入	8,356,699	18,846,371
	医療収入	79,546,939	79,546,939
	雑収入	2,247,760	5,370,788
	教育活動収入計	97,966,649	184,096,798
	事業活動支出の部		
	人件費	31,071,219	80,617,787
	教育研究経費	65,570,682	101,603,966
	(内 医療経費)	40,936,674	40,936,674
	管理経費	1,115,406	5,862,447
	徴収不能額等	65,241	97,768
	教育活動支出計	97,822,547	188,181,968
教育活動収支差額		144,101	△4,085,170
教育活動外収支	事業活動収入の部		
	受取利息・配当金	553,609	10,451,643
	その他の教育活動外収入	102,816	671,106
	教育活動外収入計	656,425	11,122,749
	事業活動支出の部		
	借入金等利息	0	5,382
	その他の教育活動外支出	0	168,866
	教育活動外支出計	0	174,248
	教育活動外収支差額	656,425	10,948,500
経常収支差額		800,526	6,863,330
特別収支	事業活動収入の部		
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	287,135	3,072,940
	特別収入計	287,135	3,072,940
	事業活動支出の部		
	資産処分差額	0	270,324
	その他の特別支出	48,298	62,807
	特別支出計	48,298	333,131
	特別収支差額	238,837	2,739,809
予備費			
基本金組入前当年度収支差額		1,039,364	9,603,139
基本金組入額合計		△3,423,373	△9,800,508
当年度収支差額		△2,384,009	△197,368
前年度繰越収支差額			△163,044,280
翌年度繰越収支差額			△163,241,649
(参考)			
事業活動収入計		98,910,209	198,292,487
事業活動支出計		97,870,845	188,689,347

※千円単位で表示する際に千円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。



受診者用施設

- ① 1号館
- ② 2号館
- ③ 3号館(南棟)

その他施設 (医学部・研究関連等)

- ④ 信濃町煉瓦館
- ⑤ 孝養舎
- ⑥ 東校舎
- ⑦ 総合医科学研究棟
- ⑧ 第2校舎
- ⑨ 新教育研究棟

- ⑩ JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (通称JKiC)
- ⑪ 北別館
- ⑫ 生協購買部
- ⑬ 3号館(北棟)
- ⑭ 臨床研究棟
- ⑮ 紅梅寮
- ⑯ 北里記念医学図書館 (信濃町メディアセンター)
- ⑰ 予防医学校舎
- ⑱ 仮設D棟
- ⑲ 仮設E棟

診療関連施設 外観



正面玄関



① 1号館



② 2号館



③ 3号館(南棟)

その他施設 外観



⑦ 総合医科学研究棟



⑩ JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター(通称JKiC)



⑬ 3号館(北棟)



⑭ 臨床研究棟

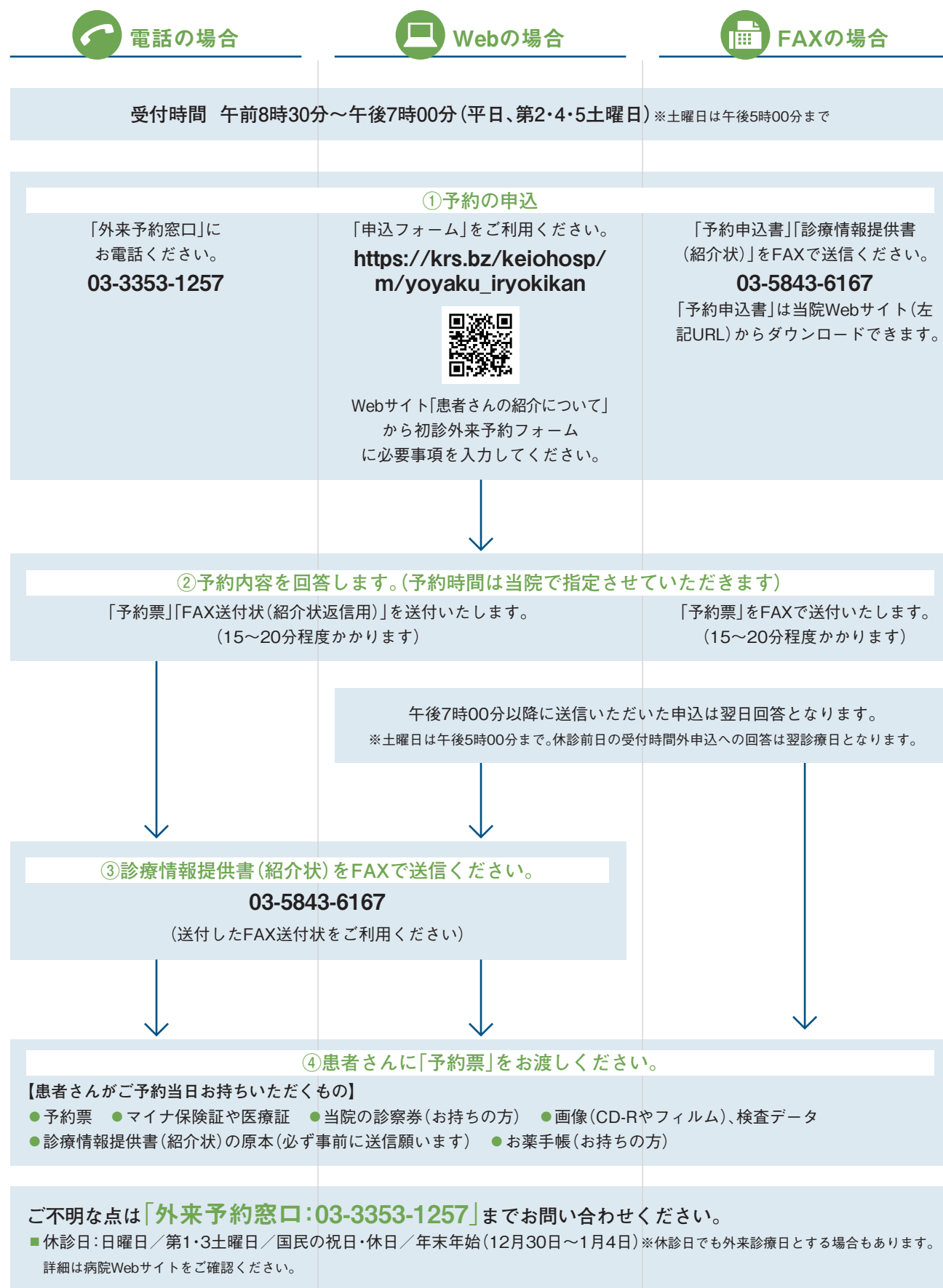


⑯ 北里記念医学図書館 (信濃町メディアセンター)



⑰ 予防医学校舎

当院では、ご紹介くださる患者さんの待ち時間を短縮するため、予約制を導入しています。
以下のお手続きにご協力をお願いいたします。



慶應義塾大学病院に受診をご希望の患者さんは、以下の手順でご予約をお願いいたします。

1.Web初診予約、または外来予約窓口にお電話をお願いいたします。

URL: https://krs.bz/keiohosp/m/shoshin_yoyaku [Web初診予約フォーム](#)



外来予約窓口: **03-3353-1257**
がん専門初診外来予約窓口: **03-5363-3020**
受付時間: 午前8時30分～午後4時30分
(休診日を除く)
休診日: 日曜、祝日、第1・3土曜日、
年末年始(12月30日～1月4日)
※休診日でも外来診療日とする場合があります。
詳細は病院Webサイトをご確認ください。

お電話でお伺いすること

- 他院からの紹介状(診療情報提供書)や検査結果・画像等をお持ちかどうか
 - 診察を希望される「診療科」「医師」「日時」
 - お名前、生年月日、当院の受診歴など
- ご予約の日時をご相談して決定します。

2.紹介状や保険証のコピーをお送りください。

送付先: 〒160-8582
東京都新宿区信濃町35番地
慶應義塾大学病院
外来予約窓口

※個人情報につき「簡易書留」で送付をお願いします。
※予約日3診療日前までに必着をお願いします。
※診察日まで期間が短い場合は、直接病院にお持込いただくか当日ご持参ください。

3.受診当日、以下のものをお持ちください。

- 予約票
- マイナ保険証や医療証
- 当院の診察券(お持ちの方)
- 画像(CD-Rやフィルム)、検査データ
- 診療情報提供書(紹介状)の原本
- お薬手帳(お持ちの方)

【ご来院時間】
予約時にご確認いただいた時間にご来院ください。
【ご来院場所】
初診・再診受付(2号館1階 1N)にお越しください。

ご不明な点は「**外来予約窓口:03-3353-1257**」までお問い合わせください。

予防医療センター 人間ドックのご案内

予防医療センターは、次世代の予防医療サービスを提供することで、誰もが健康寿命を延伸し、生涯にわたってウェルネス・ウェルビーイングを実現できる社会の実現を目指しています。

予防医療センターの特徴

- 1.慶應義塾大学病院との連携による質の高い検査
- 2.プライバシーに配慮した快適な施設環境
- 3.高度な機能を搭載した検査機器の設置
- 4.チームサポート制による丁寧なフォローアップ
- 5.各受診者のニーズに合わせカスタマイズできるパーソナライズド・ドック

パーソナライズド・ドックの内容、選び方など詳しい情報は、予防医療センターのWebサイトをご参照ください。
パンフレットをご希望の方はお気軽にお電話でお問い合わせください。

〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目3番1号 麻布台ヒルズ森JPタワー5階

URL: <https://cpm.hosp.keio.ac.jp/ja/>

お問い合わせ: **03-6910-3533**

受付時間:月曜日～金曜日、第2・4・5土曜日 午前8時30分～午後4時30分

[Webサイトはこちらから](#)

